今日、いくらか話題にした内容のメモです。まったくまとまっていませんが、ご参考に

2023.8.16　S.T

〇本人、保護者（家族）が「発達」についてどう感じ、どう思っているかの把握
　合わせて、支援者ら（学校・SC,SSW、専門機関）の考えも共有
　　・発達特性（障がい）に関する正しい知識、理解の涵養　誤った情報の是正
　　・家族の願いや思い、そして悩みや不安に寄り添う
〇困り感をもっている本人、家族がそれを表出できるように
　　・「これからの青春時代」、必ずよりよい生活につながることの認識を共有
　　・数回の話し合いだけでうまくいくことはない。ねばりつよく共有していく
〇本人、家族を孤立させない（孤独を感じさせない）支援体制の構築
　　・より具体的に、科学的に。
　　・初診は、できれば支援者（学校）も同席する
　　・具体的な取組をもとに中・長期的サポート体制の見通し
〇地域の福祉、医療の最新情報・知識の更新、人的ネットワークの拡充し、アプローチ
〇本人、家族が、「障がい受容」できる支援体制
　　・発達に関する誤った、また消極的、望ましくない知識や意識を払拭する
　　・学校と福祉、医療がつながっていると感じられる体制

〇例：A くんのアプローチ（イメージ）
　　(1) 本人への声かけによる情緒面、気持ちの把握
　　□進路実現に向けて、また、学校生活について、（＊落ち着いてすごす＊授業を大切にできる　成績アップ＊叱られることを減らす＊高校進学をめざす日常）　前向きに！　おちついた場所・時間の設定
　　(2) 教育相談（2～３人）
　　□相談の目的の共有【役割分担　＊共通理解する内容を明確に】
　　・参加者で、連携し、内容の整頓や重複確認をする。(視覚支援)準備
　　・担任・学年団としての願いや思い
　　・自身の困り感や心配、発達特性の理解の程度を把握
　　・具体的なアドバイス（進路実現と自己実現に向けた「受診」）を肯定的にとらえられるように話す（SC からの見立ても参照）
　　・繰り返しになるかもしれないが、専門家の受診（アドバイスなど）を参考に今後の対応で、(思春期をうまく生きていける（いかねばならない）
　　・受診（専門機関や医療の利用）はあたりまえ。身近にもたくさん。効果依存性なし、発達障害への再認識　差別性の払拭

・自身の困り感（落ち着き　衝動性　不安　なんでも言葉にしてしまう）
に合わせて→改善や成長できることを強調
・受診に同行
□会のまとめ　本人と参加者（確認と補足）
・SC 面談でも可能

（3）本人と話した内容をもとに、保護者と教育相談
（家族の不安や心配を増やさないように）
大丈夫！進路、青年期など（・祖父などの理解、協力の把握）
・これからの生活指導事由がおこった時の対応の共有
・明るく、前向きに、具体的に動きにつながる、教育相談の会とする
・初診時の同行

（4）次日　本人への声かけによる（昨日の教育相談を受けての）情緒面、気持ちの把握、サポート、生活指導上の事由が起これば、その都度指導、助言（＆記録）
（5）校内の会で教職員の共通理解＆指導、支援の強化

持続的に　受診後の学校の支援と指導体制の確認、
情報共有（変化など）、
家庭との連携の継続（本人の教育相談を継続）